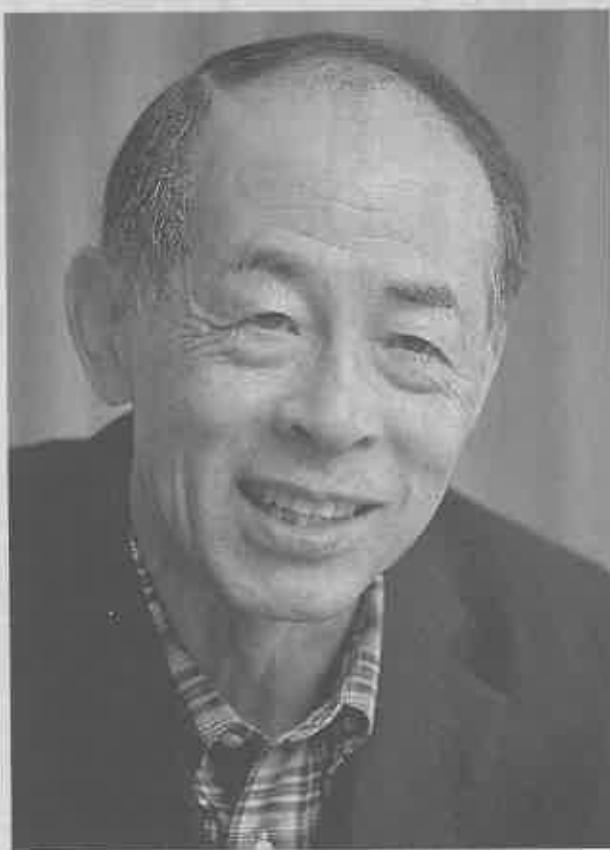


オピニオン

草原サミットの20年



放牧や野焼きで保たれてきた日本の草原。生物多様性などの視点から再評価される一方、生業は廃れ、その維持は市民活動に負うところが大きい。「全国草原サミット」が始まって来年で20年。大田市の草地学者、高橋佳孝さん(60)は「草原は公益性が高い。維持するには欧州連合(EU)諸国の政策に学び、『環境直接支払い』へ踏み込むべきだ」と提唱している。

(聞き手は論説副主幹・佐田尾信作、写真・天皇智則)
—草原消滅の危機感から、サミットに奔走してきましたね。熊本県阿蘇市で11月に開くサ

ミットが10回目です。1995年に大分県久住町(現竹田市)で初めて開きました。当時、里山という言葉は多少ありました。山が草原は世の関心事にならず、野焼きも厄介者扱い。地図の上では「荒れ地」なんです。

—その草原が今再び、脚光を浴びているのはなぜでしょう。

阿蘇では2005年に官民一

かつて、草原の景観が国立公園指定の理由だったはずです。

—阿蘇や三瓶山(大田市)は明治・大正の頃、草原は国土の1割を超えていました。稻の肥料に草は欠かせず、役牛馬を養う土地も必要だった。人の手

が加わった二次的自然景観で

—阿蘇や三瓶山(大田市)は

かつて、草原の景観が国立公園指定の理由だったはずです。

「環境支払い」へ国民合意を

草地学者 高橋佳孝さん



あり、それが国立公園として認められたのです。

—野焼き・輪地切り

とセットです。阿蘇では160

山という言葉は多少ありました。山などで顧みられなくなり、今は国土の1~2%にすぎない。

しかし化学肥料や農機の普及

とセットです。阿蘇では160

山という言葉は多少ありました。

山とい

うです。農の営みで維持し

てきました。ただ、農

地を守つてきました。

が、日本人が初めて直面する課題です。私はEU諸国に学び、新しい仕組みが必要であることを目に入れていたんです。

—阿蘇や三瓶山(大田市)は

かつて、草原の景観が国立公園

指定の理由だったはずです。

—阿蘇や三瓶山(大田市)は

かつて、草原の景観が国立公園

指定の